大山道中膝栗毛

初上

へ13
3664
1

遠州門相良

へ13
3664
巻 1

大山勝東毛初編序

道中旅愁を憂さ晴さんとて賀之が海賊丸
なく諧謔乃芸は義
の緑淺草を意て二人ばなし
西降乃神を拜ゆく憂は生ち
今邪くて書の月色なれ

冊子あるを名ばかりまこと栗毛の駿
馬とぎゝ以へる鞍いかゝ古くぬ
新作はまだ地乗をかゝ少
よゆといへさんはこの瓜乃儒物と
硯の障泥革の鞭ばかり取上て
ほゝゝ視まだ鳴呼哀れ式

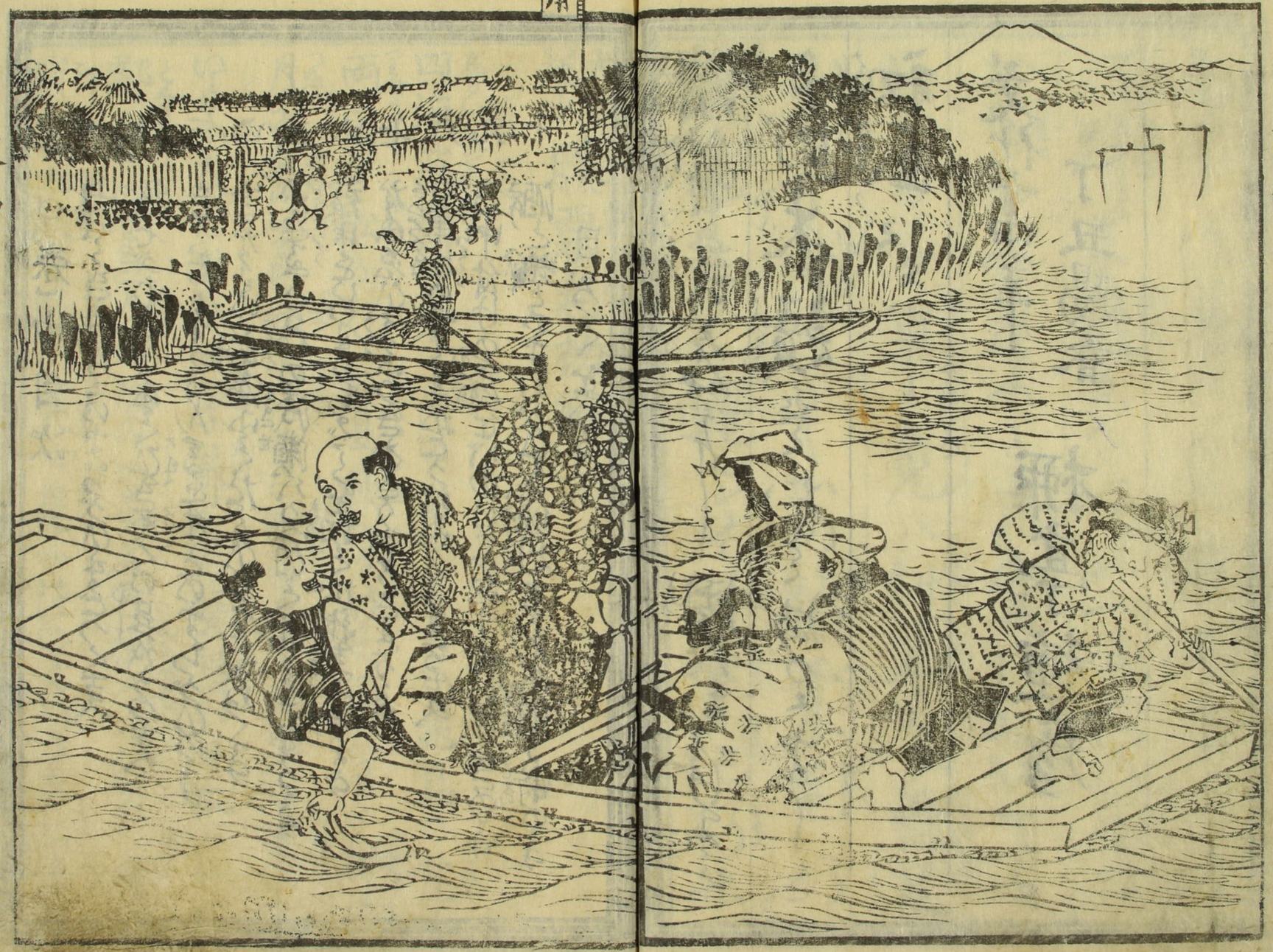
妙あるを腹をかゝゆれおゝみを
故人馬十大谷徳次郎おもまはせて
蓮葉女は品定ハ馬頭もいうんぞ
知べ乗末馬乃風そよそよ悟
道の詞をのぶいへども竹馬乃
向羽二重なゝく黒き着まれば

風ぐさ作者乃鬼鹿毛となるこ。
蹄若雞ゆをなめべき。いのぢ種
おーるぞの爲の岩に擴てゝ
おくもゝく畢竟八往年ゝ雷足
千里こ賈きゝかの膝雫毛乃
驥尾ゝたく蠅ゝイ道中紀行此

清書真名ゝ困たまゝげゝ
ゝげ本讀ゝおをはるゝ。
初山こゝ

文化十四年
丁丑陽春

栫亭種彦



○巻中目次

一 山びこ三日ごろのやまぶしつく夏
二 猿七ぐわつまつゆくひきまくの見物うる夏
三 きゝこちうのんるる米とのやちぶしめくる
四 るなるものをゆ屋ゆくたくひめそをぬくる
五 ひきするひの清瀬八ろくの川さ流ふまるる
六 漆ぬきをちりちぶくを切さ山花をふるる
七 なぬ名八るふつきあうだくまるる
八 口車ふのせくまかどうたふろぶまる夏
九 乃中付けの扇をばあけてくやしきのざこぶのる
十 酢と蛸とのまちぶひも徳利あんふ納る新のる

目ろくをはる

大山道中膝栗毛初編上

○

四海波おだやかなる代のしるしの鶴鳥の花ふ両国の船うくゝ夏秋へうけくゆだるふ柵橋月ふ案ずを向ふ流すこ聖の日も北国の寒さふいとふ人ぞなき四季節くの繁昌日本一の大都會うせぎ人のひゑいあまど接人のひゑいなく。精米の飯や酌い美女鼻ふはをくいうきこと紙

美しく旅あるく。江の島・鎌倉・筑波山・香取や
湖来ふてう〜取寄らまる成田へもつぎく三日の
ひま費〜妙美たるなふ富士大山ずつとのてら
京大坂ゆきまとめぐつまふ伊勢さぬき接ぶ七分ふ
信ぶ三分。ごこへゆきてもお江戸さん。ちまふ
ちぐにあげあぐら。こまもお江戸のくげるくぶや。
実ふありぐこと繁昌の地爰ふ浅草の八丁堀
九丁目ふ百福屋の徳市ゑ湯とく我でもなく

やさ雅でもなき接へあり。頃ハ六月中旬すぎ。
相列る大山へ参詣せんとふと思ひ立ち同じ
のみらくめく福七といふ子ぶんをつま旅の用意を
そこくふ立出る福七ハ初山なまべ。徳市ゑ湯祝
カふ初へど。徳市ゑハも先年青山海乃を一度
参詣〜だろり東海乃ハすぐめくなまぐきこと
風ふく　徳「コウ福公そこハ初山ろ　福「そふおれも
てへげくる呼へハいろねへ夏ハ福へがすぐ大山へハ

ぢ縁がなくて今度がさいめくらなんでもろ中
ぢうにおめへがこうりご　徳「そそうもやア　おまぢが　まこと
で居るうう。氣ぢまへい神。すろ　ぢうと　番内さて
もろく。サア　寝ぢやすづ　日本　擔ぢ　猫「そ　きまてこと
たア。おり〳〵ろくもねへソレ　おめへ　ナゼ　犬の上へのる
犬「キャアンく　徳「そ　此ちく　せうめ。びつくりさもやア
ぐこうもろくまへ　ぬよすやろくろみざるぐ　寝て
居　ちアぐる　夏ハねへ　氣のきろねへ　ちく　せうぢ

ろ　ろるる　ぬ　ぬ。けつの　ぬア　毛ぢ　きろ　ぢりねへ　べちやう
神へ　家物屋の　ひとへ　常と　いへ　ざるぢ　猫「うぬが
そこうで　犬を　ふんで　ぢう　ぢきみ　ろろく　ひろア　そして
小田原町の　犬と　いふ　古い　ちやまを　ちうぐへて　新
そふ　ふ　ちやまろぜ。あのくぢ　犬　だろ　いぐぢ。ちぬと
ちやまを　ぜび　氣　ぢつけて　いひねへ　連の　ものぢ　へ
ろへくぢ　徳「ろろく　ちやまろる　己ぢ　ろくる　夏も
いとねへ　人せぬ　そろやア　そふと　そやく　夜ぢ　明まぢ

いく。うもそのくらくて豆下がこんくねへそそて同若
ぶるもの通りそうみもんぐ。福つうう淋しいとぐん
通りて下をゆく。徳「ふふふふふ乃坪ふあんなまぐど大ふこちハ同しや
ぬのうしすそそのうくうくうつのくあけべよしとゆくこと春とみづくぐ
出うけしが山びくきこの六月廿七日ゆるゆるとあき人ぐふ廿ゆるびよりゆるつ
するふまいのきのくこうゆるゆる十七日を山びくきとこうへ。十こうゆるふゆるつ
廿しゆるいすぐご同しやもなくくゆるくゆる家土同ゆうゆけぐ同ゆる
大山とゆうのちぐふとおのひゆるけくくゆる大山同ゆやゆうゆ人年ゆるゆすて
徳「なんと福ゆ一ぷくのんでいくうぐやうねへう旅ハ
胡のふゆ出しぐでくぐぐ。福「マアのみちうとゆうゆう。
あんすう早うゆ。徳「ソそまぐ胡ぐ胡ぐくつとと

いくく旅ゆまねへものへゆんるゆそのぐ三ゆうゆ三ゆうゆと
青菜ゆゆうゆぐ。マアなんでもなまとゆるなまとゆゆうる
ぐうう世へト。大山乃坪ゆゆうゆ。小川ゆうゆくゆ家ゆ世
福「ヨイそんなゆうゆ一ぷくゆくゆうゆそのトゆ今ゆ日世ゆゆ一ゆ
ゆうゆ。ゆ。ゆ「とまいハゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

出うけ申ス。コウ 福「ヒ宮ゞ中橋といへばゞ橋へ行
ぜ 福「ヨウ〜ねくるゞ。げくぶんのまつの中橋をきく〜ねへで
ぞめするめり田舎めんぢやアあるめく〜 徳「そまでも
案内をきく〜まつとしあんだらうおーへくゆるのゞ
福「ソリヤア先の夏ゞアるゞ。江戸の門いきくみらア
徳「きゝちやア居るゞろうゞ大山へ初めへけゞめく
通るゞろう 福「ロのへくねへ夏ゞろう言ハア。ライおら
さんモウ一ツくんる 兼「ハイく〜ト湯を 福「あ〜まつこいつア
ゞるる

妙ゞアイ 兼「ハイあるゞこお湯をト 徳「時めめも
大山まつまへ布引ゞゞ。ゞゞ今夜の通ねへの 兼「ハイ大山家
宿のお方へ明後日あくちでなりまゞゞまます。今
のうちへ家士同ゞだろうゞ。あるゞこ方へ家士へ
うけて出家宿ゞくこちまつ 福「イヱ大山ゞろうサ 兼「ゞゞ
いこしてへまゞ早いおゞでゞゞろう ゞまをト 徳「ゞ
兼「ハ十七日だつけの 兼「イヱ廿七日とやまをとゞゞゞ
ゞまハト 徳「ムゞゞゞく廿七日ゞ 千三十八

でんぐ天狗山開きぶおくまるト福七ぶ方をひとしのく福「今ハ
ろくしいろく義ゆきを
いちやア初山のかたろめ第一ハイ道定寄なしゑ知るき
まべ明日ハお山くおろきなるさりまぶ変ぶやア山明
きまでおり
を出阿ぶ出とうつとうでもるさ見ねべなるうまぶまい
福「コウ徳さんあんやり早く出るけさぶやう福くろ
徳「ゆつまのい義ゆぶ初山とのんぶろ。
どんでも道ぶひぶいるろ〳〵。ゆるくんゑ義とふと
周りくト まりおんでおるろ福「ハアゆろろ初ぶく見で

ゆ山と思ぶさあく徳さんゑんれく壬年八年年一喜世ちやア
ゆるれく三度ぶ三度品稲習ふく存せるまへなんとるを
尽〳〵世の中ゆなろくとの 徳「べらがのあゆろ第代
を氣ぶ〳〵せるのぶ道中ぶくとんるひぶいらゑねとぶ
福「ハ〳〵〳〳。おくぶろう道中の氣ぶもまぶろいはアぶ
ゆるのとゆ如ゆなくさまるを銭ぶおくくれくライゆろを
ひまとまう一ッぶいくんゑ。ぶんぶらく徳さん一ッのまわろ
徳「イヤおくアゆるうをゆるよりあくを見ゆまるまゆ。ろく福

おしでも腹のこしらへなく物がいく。福「そもおあくすあるこう
たまてこ夏だろう金時のんどこそろろく出さけこう」徳「今
よろろの」兼「アアよろしくこうぐぎりすぢ。ゆうりとおあるこ
はぐしまし、お湯をモウ」福「アイ毒四独ぐ貧が
うくよのこのろう中こと」兼「サウけべ豆」徳「アイお世話
兼「よのおあおあそぐしまこと。お解りめ」徳「福公
アノ亭主ぐあんまり湯をのゆきこので来貧をよんご
徳「ろまも欲なろうん小川の湯をんひい

泉すぎでき毎月。あるぐなるらん
福「ゆ正三位家隆ぐ中ろくぐぎ。そうゆやろくぐぎ。ゆ
難のあ。ぢのぶろくそなるねと。家へどへでも
お人ぐろのぢぐ」徳「コウコるく。ゆやとぐぢとそ
さろしおしあくるを男ふうち。ぎきこ豆ふなるろ平へ
ぢぐりとまぐ」福「ライそんなるそ直をふそろく
ゆきいるトここビを薬しきんで「アイシツシくトうけまりぐ
ゆろ夜四やおの花柳。福「ヤイ此ろへ男ぢ人を
福ぢあるそけまでしてゆく。福「ヤイ
ぢぐさろ尾ろをつきぐろしてきあぐ

[illegible]ぐ。やちやらがれぐト通る人
[illegible]「ア福エラやうてもやろうぶる業の刻げんが
きまるぞ。うねぶ首ぶぞまぶ風ぶぞいつとも
[illegible]べエト[illegible]「サうけくつて
[illegible]の用ぞ 福「ハイイエ私の天窓ぞあるこ[illegible]
[illegible]ツイぶらやうこ[illegible]。あややうこんぞんじやうて。
ト[illegible]「今度[illegible]
[illegible]ア[illegible]ナト[illegible]ひ[illegible]

[illegible]ト[illegible]福「どの[illegible]
[illegible]いめくまゝいおめくぶるゝゝじを直せといつとだろう
でもんぞめふあ[illegible]そくく 然「ハゝゝぶぞこと
だろ 福「インヤおまぞあこやまぞ。あのつぶ足をぶつとうんざ
うゝ高張でおまぞ天窓をぶつとくゝ[illegible]
然「ハゝゝ。べらぶうめくみんる嫌らまこうぶこれこと
おこのぞようこの男ぞ。おまぞこと足をすくつてやうぞ
てめぐらア 福「[illegible]ぞこと[illegible]

花鄰「ようろうのめうの。つうまるゝ。あのうくらぐ
雲妙でも。どうも。業がおもいうう。コロろくする。首がなく
なゝア 徳「そんな首いろくなれてもいくじゃアねへ
福「ちゃまるさんみ。そんぎでもまた。とうちゃア天窓が
いさんてなゝねへ 徳「豆のいさひをなををろうく。
あとやをいさめるもいく。おもゝまくく 福「ようゝ
祝人。何おもゝまくとるが有るものゝト ブツくゆうをれ
祢市郎ようゝ日本橋へ夜通しの ようる「ヲイシツシく 徳「ツレまる
来るまづけのさろみろぎゝ

巾ば状箱ごぞ 福「モウ状箱へころくゝゝト
ちぐこまりようくゝ生べ 福「ようゝめくすゝふるんごいぐてんが
さくみるとうくぎたゝ人をる
初鰹を賣るよみ。べらぐみろけやアがる。なんごろ
おゝけが付く歩行まるもんごやア 祝人早くあるく
るまべいくト 徳「福公柳樽み横町み一ツ
づくある芝の海といふ句があるぐ。ようくいくゝでやアねへう
福「そんみ横丁くいそんる海が見へる。るる程いく良を
見付るもんご。ようゝ其句みつて一首ろうんご

福「江戸子のひ虎きもことつとぞ
安房やうぐさい 横町みあり
徳「福ろ〳〵いく晴よ東ぶ者〳〵んで来さで。豆のとぶ
見て歩行よくなろ〳〵。サアとまろ〳〵芝の田町と
いく所ぶゼ 福「後生ぶろ〳〵。江戸の雷門へ出見ぶよ
徳「ハ〳〵〳〵サアくぶろぎと斗狐ひいく来さこんる
ぶうぶを貸ケみゆくのぶ 牛方「シイ〳〵く 車の者と「クワテリ
くく 徳「足とまくなれで行 徳「福公ちりとやこ 福「変人
徳〳〵〳〵人いコロ〳〵ぶを云ろと

徳「ぶをする 徳「家ぶ旅なまてこ所ぶ此牛の屎をこ〳〵の
あいぶへいまるを豆の福ろを さま〳〵て豆なぶも出
来ぶ。ぶい一の業ぶ笑さ面もつ〳〵ぶを取って入さ〳〵
福「ろ〳〵きさねく変をすれ。おろアいやぶ 徳「ハテ者ろ人の
ちとい十二きさ福へ物ろ。なぬ毒ア者ぬく〳〵。豆へつける
だろうぶ。ころハ言へれく〳〵。来さくふやろ廿人をぶ
豆物いこあらまるを。おまとやで猟義ぶト 徳「れて旅の傷
豆ぶいろ〳〵ぶ三芸作ふろも変のぶくと思のせひろくこ〳〵ビをこ
ぶんゆやうとふこ付ろと豆の左ちへさこ中〳〵ろうやぶくろれ

福「コヽ氣味のよろしい。くるひぞ旅いうものゝこゝい
ものゝご。大山へ行ふ世人世くらいごゝろ。伊勢へでも
行ふへ雪隠へ一ト晩も。豆をつけて酒ごゝろ。るゝめく。
ト 教をあるめくこゝのひもまつまで居ろ家へ 牛ゝ「おゝくごゝ
ゝ牛ごゝるゆきたり伏そのとゝきをつぶ
あふようさつ〳〵やる。きさねく人ご 徳「伏のこれゝ。元い
豆のゝこゝまねくまゝるのゝよ 牛ゝ「ゝこゝあてこゝまねく。そ
つゝやア馬ふんごゝ 徳「ナニこんる馬の屎がゝるゝものゝ
牛ゝ「ヤ」依ゝ牛のゝくそふちげくいねゝが豆のゝくそふ

なるのゝ馬ふんごゝアとゝのゝ麦ゝよ牛の屎ゝなんふゝるべ豆
徳「ハテナ。ゝゝアゝ牛の屎ゝごゝときのゝこゝが牛ゝ「ゝゝゝゝアねんゝ
歳中牛ゝ世ゝつちゝふゝすゝゝゝ此事まで牛のゝくそゝ
なるゝのゝこゝゝ聞ゝこゝゝねく馬ふんごゝ成ゝ豆の
福門をさゝゝ。ゝゝアゝのゝこゝゝやアゝゝそのゝ
間遠ごんべヱやゝくきこゝねくとんごゝト 徳「ハテナ
覚へちげくゝゝゝん 福「コウく 徳さん大変ごゝ。
もきゝこゝふゝるゝんごゝまんごゝこゝをさせゝの 徳「どゝも

ちうさがねへ主だりじやアねへ。これもこの通りざ 福「おまへ
いくどのまのざんぶやざとひつて。おまやだらんごま
せくひめへまーい業ごときひくせる。きてこなくてく
なーるんぶん間遠じやア。もうくこてへくらまを祝へ。この
見をどよせう 徳「どよするもの。先へいつく洗へべを。
そまでも牛の屋といつやうだねへ負けのする
ものざ。ちーーー見も宴の名物ざーーー仕ることねへ 福「入
をこるあみーーー屋敷ふん貸けて名物みてざるあ。

徳「そまでも田町のふんどんざといつちやア名代ざ 福「そ
ちやまを呼ばやアねへこるあ。おりーーろくもねへ。そーーーおりーーー
拐かこるーーーを二百ぐ買へくまのて来てこの上方まで
清合ざといつこるーーーを。江戸の内ですてねへければ
なーーーねへ。ふんざめあるとせる 徳「ハーーーー。塩梅きさーー。
おまざこのくこるる氣ぐちやアちあへーー。マアナちやへく
ちやまを。ちうん世へでもよろへ。洗へさんぶんどんのちやう 福「おーーーア
モウ見がすくんであるうれ祝へ。きうとうのちやアを

なくなつてと　夫人　すでにあがりぬ。へくるおもひつきたるよりく大ぶ
すでまる。このとろこたゝ夜もらりと明け。あるこの
弟屋そて文ども　「おやもとく。お仕度でもなさりま
くらぐ　「
完子の取　とてお者の新しい〜のもござりまして。おそ
いるく　福「サア徳さん家ぐ　徳「ふさア
這入らしート　ゆる家屋　女「あるさお早へござりまして。サア
元　皆へお上つなさまし〜　徳「コウ姉さんあをちりと
こんねく。あ〜を洗へねくぢやアあづれねく　女「ハイく。ソレ
おみよどん。おこ皆をおもてま〜ゐさる。おこの湯殿汲で

お上げ　のへ〜る　女「ハイくアアお豆ハよどれまし〜てもよろ
あるうござりまして。こと見へお上つまりまり〜ト　なこの湯をこ
おく。一ッこの旅このおこ〜〜〜〜〜〜〜〜のまく〜〜〜〜〜〜〜〜

マアざうとうの法のをしてすこあるの変化をぶりく 福「お
らア湯ごよりご至」へうう。すぐあつくこまと 女のうんやうふかさの去ごとへうきを
ところをきごきつけ。あ是をさうの人を。さまきるをあ。三王「だんる
是と是でもんでおるあるおりその。うりうりうりうきうり
ものうま 元馬アどうご。川ながすで。ゆうをめぐ。ゆうべ王 福「イヤ馬ハ
いうう福く。モウくきうこうしうく。 福「ナニおうぶうのきさ
福くものう。王是よるあるアおめくごこア牛の屎みせへのらッ
あるうこしやうれくうへンおとつうきごめごんごだうこと言
をつうア 福「ナニたアこをうんご。此べらごうの地トうきび

たらのうをとあるをぬくと 福「サア大へんごたをけ舟く
をしきごううのごうをけふる
女「ヨヤあるうこ方の是の屎く。そををすぐみ
ならのくお入をるをるを是へ 福「ううらアうんべ伝言町へ
海川で。今彩田町をくるる時此流をうんけうぶあんごう
斗此屎をこれ久しそりうけごうやアナ彩のたうくうら
江戸ありてをとううでもつまくまてを人ごうをあるのくく。
通りくを来ごト 王「きのて真うをすこ一 真「モシおめくごこ
ぶんご流ご斗の屎をもの川くきそたうのくうこ王うーやる

ヨハあんまるまでゴそゝをけとゝの板へもろくいとアそゝを
おみよ。ちろりゝきをのつて来い 女「ハイ 亭「そゝをゝゝじやア
ねへい下をさくわゝきたハイヤハヤ 勢ゝさらゝゝのけみゝを
でも根へ内中屎だらけめさゝをゝこレ久助やマアゝをゝを
二三荷そんできくふん流してゝをゝろ。コレくゝをゝんる
ゝろきを上げろ。コリやく天井へさねるゝ。ゼそのせうめ
ゝろきをとゝを上げるのゝごたくみゝをあげろとゝの喜ゝ。
ヤレくゝ久助へまゝ屎ひゝやくゝをゝゝりくせちんへゝ

ゝゝ久「おゝくきゝゝゝゝをゝ二三荷ゝんで来いゝ
りゝらゝゝやゝゝゝ亭「そゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝくせちゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そのうちに是こうち志川うりおどりを出す　亭「イヤ
朝ッたからけちを付こうまて人のあきるのハちよ
世話　孫「ホイそれでやるぞ福へト　ぶ三貫つくて
孫「コウ女中　これハすけれんぐどよでそこのとうりて
ゑんるせ五サヲ福七ゆうけうとト　すぐくと　亭へのけこと
くでもねへ　ちくぐ早く　塩をとりこく　ものト　あるのでおいでこれ
福「アレあのおやだとゴんねへ　塩花をふるやアグるおゑ
のおくげでゴんぐ月ふあうこらまくくの　孫「さおまが

せへるものっまめへがたくのをふこゆのごうこうおく
さりぎこれるうこのご　福「そうやアそよでも　えりとゆび
おめへがゴんぐ吉をおへ〳〵。牛の屋敷ふまゑこんぐ
ゆうのこくこくもうこことりのんぐこまでこうこアノ三
百へおめへがしてゑる　孫「だうアゆうこ〳〵。牛の屋をゆうぐ
だうなこ〳〵残いこ〳〵ねへくまでだこうのこをふゆいここふ
ようこ残ヲおのこのごうこうてめへやそぐいく　福「こうこうロう
らねへよくうんぐこゴる。牛の屋せへこうまねへくまでこう

いをうるうるなづもねへ。そしておれが初めごろ〳〵ひけてを
おろねへのあんのをこれおだりなをり。なけ〳〵。あた
こじやあおまをだろり氣のきろねへあめくまうふなろこと
うろ。おめへいとうわどこのこちらがいく。あんでもおめへ知して
長ながせへ。彼「いめへまし〳〵いたんるあ〳〵そうよ。三百たが
ふんごろ〳〵まてこうより。塩花がおまけど。一生こうまる
あんじやあねへ。福「そしておあ〳〵アなご紫ふんくそ
いるうろよく洗の直し。てくあんご。彼「そんよおまをまご

そんとふのおちねへようで。氣味がつとこいコウいくあん
だのふ波が来こうろ海へ這入ってよく洗あふ。福「ウ、
とのつの物ど寄ぐあろあアそんとよきろたりすくご
ろふ。イヤおろ〳〵ぶくくといろちやアつまろねへ。彼「だろアア
いろろ〳〵。海といふあめへとふあさでふ丁や十丁いつても
ぶつうろふの物じやアねへ。福「イヤく。おめへのきとふ
貴ふなろね。モウこうこくく〳〵。彼「そんなろねへやあ
よころ〳〵。おのろアなろおろ。洗のくいろうト。御ちんたり
げんざうり

おりぬ。ぶるく　徳「こりゃ」ぶんさうしゃ。ひろまり。ごさんぶ。
ぶるく　ぶるく　ぶるく　

つぶ　徳「コウく姉さんさうぐ夏アねく。おゝ〳〵ア氣ちがら
でもまるのみのでもねく。ひろめの海でこうをとりこのご。
う〳〵あんどるさんる。マアこのひとくものを二てくらんる
せるトのまをてすこー　女「ハイく〳〵とやりまし〳〵マア
おちるまる　福「イアモリたべ歩めく。いけくことあをのこ
ゆー〳〵〳〵　女「ハイさあうなゝおゝしものを二てすをう
トまあ二ちゝくくあく。おまあく　徳「コウ福公美さるもつまろ
さ〳〵泉。けぐんるゝわゝく
強くものごとんご見ふ食せこビ　福「そまこごろておまも

「生けんものごと思うこゝろ〳〵。おゝくの豆へうぢり殺こぜん
てゑおゝくぐいろくるこをを言ゆ〳〵てい。人をまんご見ふ
食る。てもなくおゝくふ引ぢりこまこ〳〵まるるご
こをこ　徳「口のへ〳〵ねくこをだろりいぜ。こをふゝゑ酒の
ひるうち二る麻る顔死〳〵まるゝまめく酒でも言
ふゝ　福「インニヤおゝア復ぐこのをろうご。ナちまれそん
だく〳〵。モウく呑ときいちやゝるんでまるいやご　徳「それ
だとりこく茶屋のゑ世死ふきげく天食せぐゆる氣

毒ご。せんごろうの祝儀ふちゆと神酒を呑らん

福「そんるゝ〳〵ごろうとゆゝうそん。ヲイ姉さんどんぞ

いゝのと二合だくり。さろるのいなりあり母を　女「バイく

ゝを鰹のおさゝゝあぢの塩焼のやうるゝの　福「ヲイそれ

を中ゝてゝんるの世へ　女「ハイくト　てゝしさろづきもち　女「ハイ

きさう者も出る

一。めゝあぢりまゝ。呂今めくゝのもデまたトいまを

由　徳「ドゝく一ツいゝでとう。ヲツトきてゝくゝト　一トロのこ

く

いくゝのちごゝるんと福ムおろうきるゝんゝぜ　福「ハぜく

徳「イヤくゝごをゝゝと呑のをゝ中ゝさゝ門きのようゝふゝを

呑のゝへゝぐうせへるゝちげへゝぐ。アゝイゝく　福「なをいゝうを

おのへべおゝゝゝろへくもれへ。おゝまゝきゝゝるゝとゝゝでゝゝをまゝふ

おろうゝきゝる。七つゝきゝもいるゝのゝ　徳「イヤそゝの半ゝまでも

福へゝゝのんでゝんきゝ門ゝゝ大きゝふいく　福「る麁へくゝい

ゝゝごゝそんるゝとゝをいゝよ。おゝくゝさゝ徳さんきろきゝへゝを

ろへゝぐ人ゝをなろゝちゝゝゝさゝろゝゝゝ

きさまたろきさりご　徳「そんなこと。そまでさろくちまが
福「コゼごとおろこちらこのろ。おりろくもねくト　うまこれ
ろるもふひとへ　女「ハイおあしーものご丁まりこと　徳「見ひく
ものも丁おろう
大きこふち世話ぐくごぎりゆ
狐へろ　女「ありがもへごぎりゆまたごこと。ありこ
うへ不潤法でごぎりゆまたト　ろくそときこるそこ　福「コウ
そくふりりてへゆく
愛のゆろくへゆまごおのくと氣ちげへろ狐つきの
ゆうふ思りこく居こゆうもごご　徳「そふきいまく

ちのゆろくごろくくくもも狐付ごと思へなくアノ
女を一ヶそんおどろくて。ちぎろうまふちべヨ　福「イヤく
モウよくてんるゆまころくるとをする哀ごやうねく。
愛もまと逐出さまるこうふごとろをくいめくす
い。のくくろくくびまりぴくごよ。此いきおひでよ
ちろけよへ　徳「サアそんろくいくべるヨイ姉さん
勘ぜうくしてんる　女「ハイく式百八十文でぎりこと
ゆまた　徳「アイサア　そんる下げくんるゆまへトうせうのろふ

[illegible]

アイお世話ふかり丑〜と　義「よりのおかあと

だ〜ち〜こまく〜ふ　ふ　ト　代番屋主人のでる編十八町もるこく

よりあまくこの客きぬくさうこちら　おふ　客　るきぬいくをすろ世〜武士あれば

客こをこふくこ〜偽もあり。おのぐきあくよ　西川の宿すのるる彩をるくく偽

いとき〜ろく中ふくあろ偽盗ろ　ふのづる客世ぞろうの義田るふ　ふ　ふ

ゆ〜ふおろ〜ニ子ふ　ふ　ぐ三八の義の報客ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

世おのふ〜げふ言義きふくく　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

客ろ〜ぬまくふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

福七　一ろ三　路夜　ぞのふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

りの　いとぬ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

大山道中　膝栗毛初編上　終

遠州門牛相良